

北九州市生涯学習ビジョン

Community *Action!*



一人ひとりの「学び」と「活動」が作る北九州市の未来

北九州市は、産業都市として発展する一方で、公害という深刻な課題に直面しましたが、市民の自主的な学びを契機に、市民・企業・行政が一体となってこれを乗り越え、環境先進都市へと歩みを進めてきました。

この歩みは、市民一人ひとりが課題を自らのこととして捉え、学び、行動することで社会をよりよく変えてきた、北九州市の大きな財産です。

生涯学習とは、市民一人ひとりが生涯にわたり主体的に学び、その成果を生活や地域、社会の中で生かしていく営みです。それは、生きがいを持って心豊かに暮らすための基盤であるとともに、「学び」と「活動」を通じて人と人とのつながりを育み、地域や社会に新たな価値をもたらします。その積み重ねが支え合いの広がりを生み、まちの力を育んでいきます。

いま、社会の変化が一層激しくなり、地域コミュニティの希薄化や孤独・孤立といった課題が顕在化しています。そのような状況の中、人生100年時代を迎えた私たちは、より豊かな人生を送るために、これまで以上に学び続けることが重要です。

このような考えのもと、北九州市では、「共に学び、共に育つ『共育』が拓くまちの未来」を理念に、「北九州市生涯学習ビジョン」を策定いたしました。本ビジョンの取組を進めることを通じて、市民一人ひとりの「学び」と「活動」が広がり、それぞれの力が地域や社会の中で生かされ、誰もがいきいきと暮らせる北九州市の未来につなげていきます。

結びに、本ビジョンの策定にあたり、多大なご尽力をいただいた、北九州市社会教育委員会議の委員の皆様をはじめ、貴重なご意見をお寄せいただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

**Community
Action!**

令和8年4月
北九州市長 武内 和久





目次



計画策定の趣旨	3
生涯学習とは	4
生涯学習における「学び」と「活動」のサイクル	5
次期推進計画策定にあたって考慮すべき社会的背景	6
進行する社会課題	7~8
「学び」のニーズ	9
「学び」の現状	10~12
次期計画の方向性	13
ビジョンが「目指すまちの未来」	14
ビジョンが生み出す変革点	15
ビジョンのコンセプト	16~19
ビジョンの3つの基本方針	20~26

計画策定の趣旨



北九州市では、市民の学習活動を総合的に支援するため、
これまで以下のような計画を策定してきました。

平成10年度	北九州市生涯学習推進構想
平成14年度～17年度	北九州市生涯学習推進計画
平成18年度～22年度	北九州市教育行政総合計画（いきいき学びプラン）
平成23年度～27年度	北九州市生涯学習推進計画
平成28年度～令和2年度	北九州市生涯学習推進計画《“学びの環”推進プラン》
令和3年度～7年度	北九州市生涯学習推進計画《“学びと活動の環”推進プラン》



「北九州市生涯学習推進計画《“学びと活動の環”推進プラン》」の策定から5年が経過することから、令和8年度からの生涯学習推進計画を策定するものです。

計画の位置づけ

「生涯学習推進計画」は、北九州市・新ビジョン(市の基本構想・基本計画)の部門別計画の1つです。加えて、教育基本法第17条第2項の規定に基づく、地方公共団体が定める「教育の振興のための施策に関する基本的な計画」として位置付けています。

計画の対象

対象範囲は、主に「社会教育」「家庭教育」分野です。



生涯学習とは、人々が生涯にわたって、あらゆる機会や場所で、学び続ける活動のことを意味します。

生涯学習の目的は、自己実現、社会参加、職業能力の向上、生活の質の向上など様々です。学習する場所も家庭、学校、職場、市民センター、生涯学習センター、図書館、オンライン講座などと多様です。

生涯学習には、知識や技能、態度などを身につける学習行為としての「学び」の側面だけでなく、それらを生かして行動したり、人とかかわりを持つといった行動的な側面としての「活動」が含まれます。

生涯学習の例としては、以下のようなものがあります。

ボランティア活動や地域の活動に参加する

資格取得のための勉強をする

健康づくりやスポーツ、レクリエーションに参加する

本を読んだり、講座やセミナーに参加したり、オンライン動画を視聴する

音楽や手芸、園芸などの趣味を楽しむ、その成果を発表する



POINT

このように生涯学習には様々な「学び」や「活動」が含まれており、日々の生活そのものが生涯学習であると言えます。

私たちは、生涯学習が知識やスキルの習得にとどまらず、「学び」や「活動」を通じて、人とのつながりが生まれ、社会にかかわる機会を生み出し、自ら社会を作っていくという“営み”であると考えます。

生涯学習における「学び」と「活動」のサイクル



生涯学習の「学び」と「活動」は、それぞれが独立している場合もあれば一連のサイクルとしてつながっている場合も多くあります。

一連のサイクルでは、次のように進んでいきます。





生涯学習・社会教育に関連する社会的背景

先行きが不透明で 将来の予測が困難な 時代の到来

01

AI技術の進化や気候変動など、あらゆる物事が激しく変化し、複雑かつ曖昧な様子が続いて将来の予測が難しい時代を迎えています。

そのような社会では、一人ひとりが年齢を問わず、常に学びを通じて幅広い知識・技能と柔軟な思考力を更新しつづける必要があります。

人生100年時代における ウェルビーイング の実現

02

人生年100時代を迎え、長期的な視点でより良い人生を考えることが必要となる時代を迎えています。

長期的な視点でより良い人生を送るためには、心身の健康に加えて、社会的に良好な状態（ウェルビーイング）であることが欠かせません。そのためには、趣味やボランティア活動等を通じた人とのつながりづくりが重要となります。

様々な社会変化を背景と する地域課題の顕在化、 課題の多様化・複雑化

03

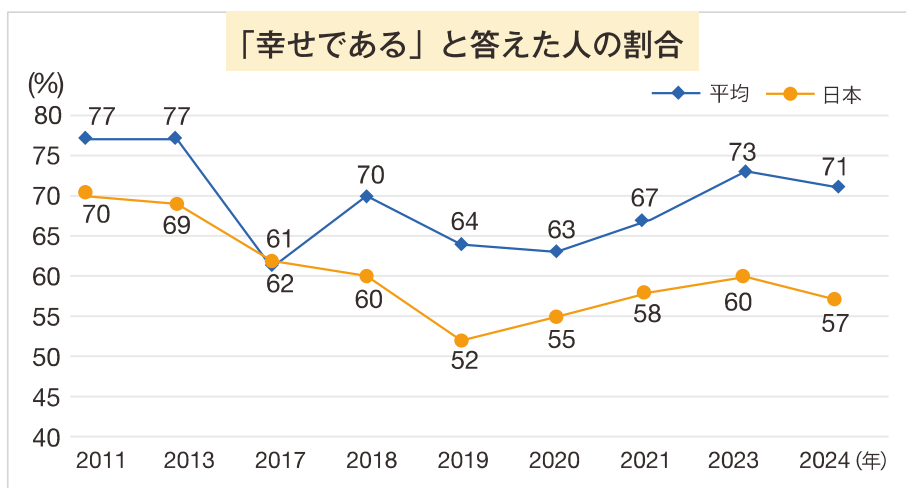
これまで地域社会を支えてきた地縁組織の弱体化により、地域コミュニティの希薄化が進行しています。

そのような中、多様化・複雑化する地域課題を解決する、さらには課題を発生させない、課題を早期に発見できるような新たなつながりづくりが必要です。



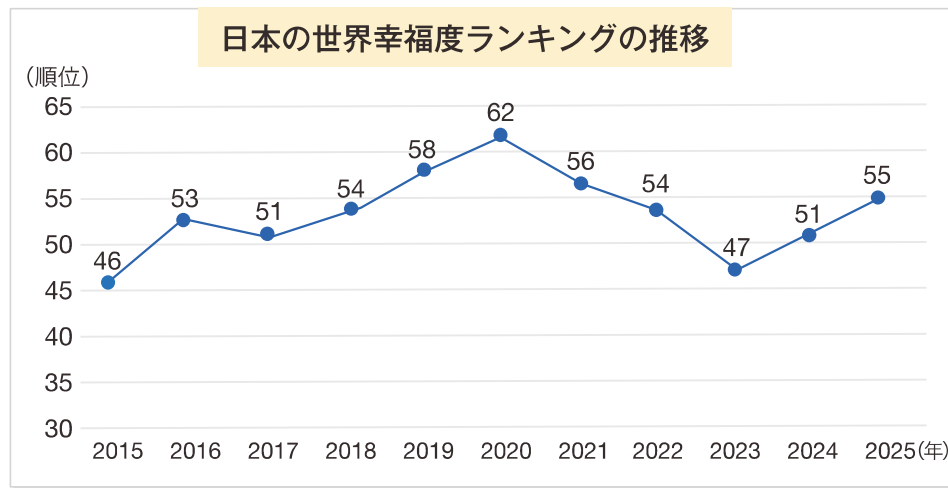
低い幸福度

5年間の持続的幸福感を測ることを目的とした「グローバル幸福度調査」において、22の国と地域中、日本は最下位に。
(2025年4月)



2024年イブスグローバル幸福感調査レポート

2025年版の世界幸福度レポートにおいて、147カ国・地域中、日本は55位。G7の中で最下位。

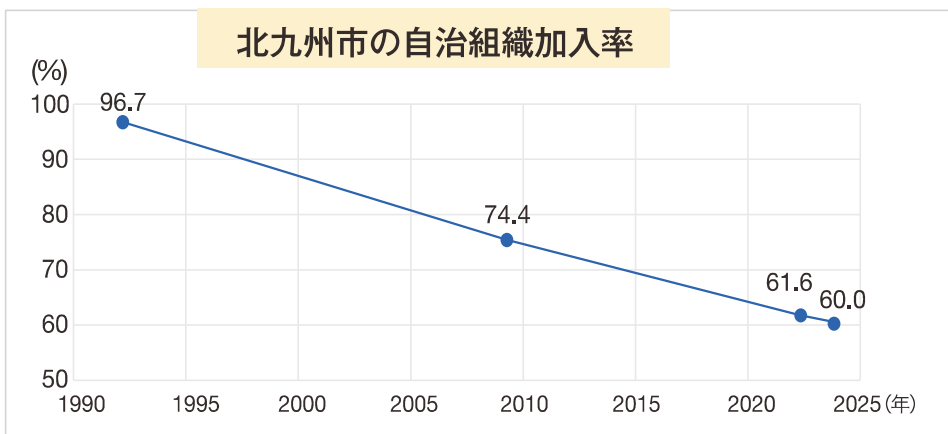


世界幸福度ランキング

既存コミュニティの弱体化

従来の自治会やPTAといった既存コミュニティへの加入率の低下、組織数の減少。

北九州市の自治会加入率は30年間で約40%の減少

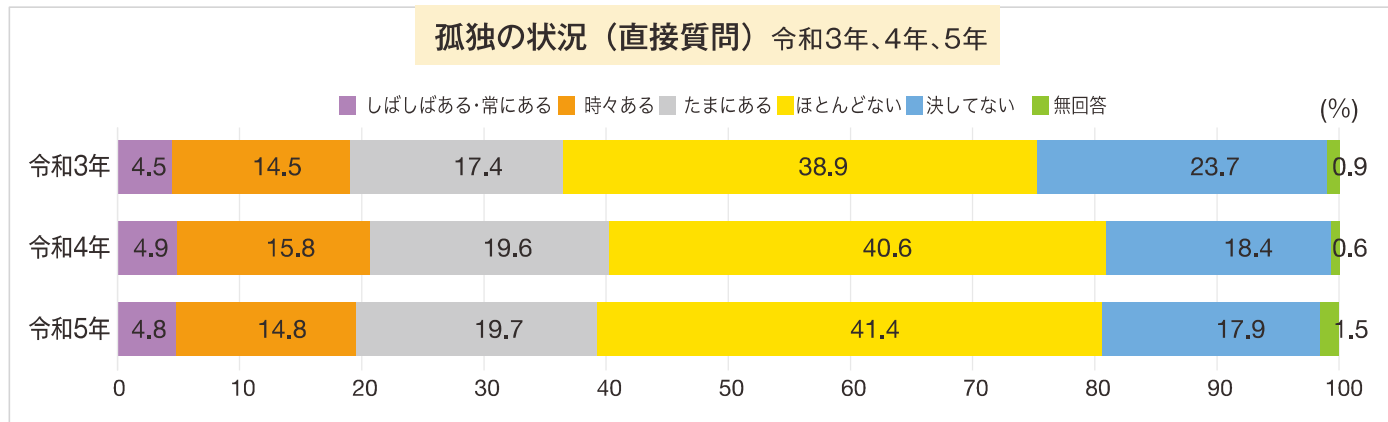




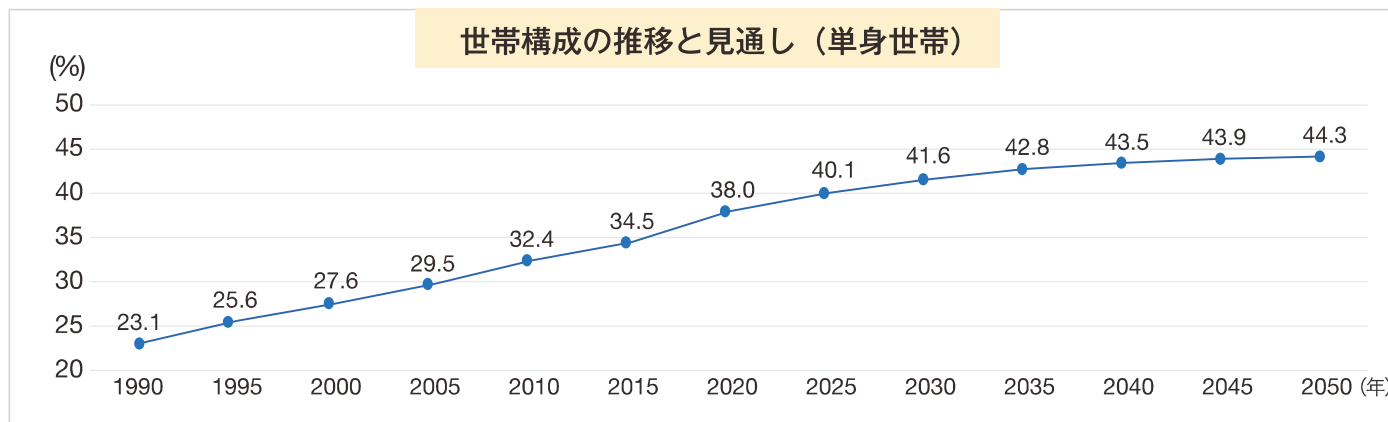
孤独・孤立化の進展

「人々のつながりに関する基礎調査」では、令和3年度の調査開始以来、孤独を感じている人の割合は4割程度。2040年には単身世帯が44%、うち高齢者単身世帯が19%に。

【国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計」(全国推計・令和6年推計)】

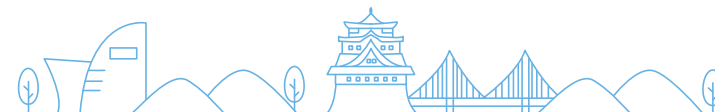


人々のつながりに関する基礎調査（内閣官房孤独・孤立対策担当室） 令和5年



総務省統計局「国勢調査」 国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(全国推計) 令和6年推計」
※2020年まで実績値、2025年以降は推計値

「学び」のニーズ



（いつでも、どこでも、
気軽に学びたい）

人生100年時代、多様な
ライフスタイルにも
対応した、生涯を通じて
学び続けられる環境が
求められています。

（変化の激しい社会に
対応していきたい）

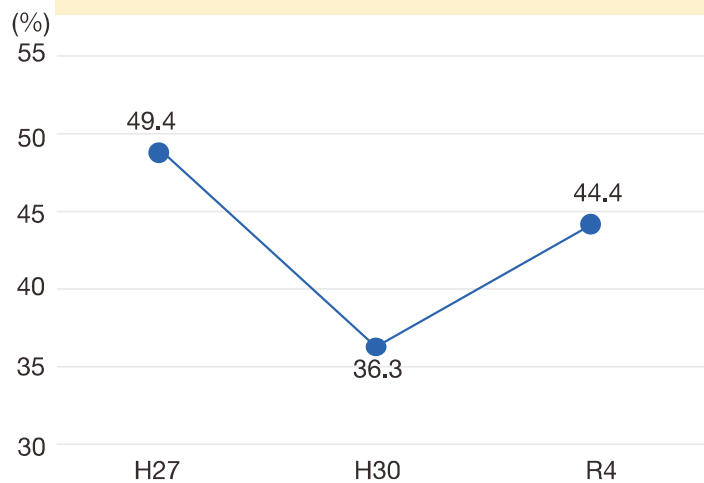
不安定な社会情勢や急速な
技術革新など、将来の予測
が困難な時代を迎え、生活
においても、ビジネスに
おいても学び続けることが
必要です。

（豊かな人生を送りたい）

人生100年時代を豊かに
過ごすために、生涯学習を
通じた学びや健康づくり、
多様な人とのつながりが
重要になります。

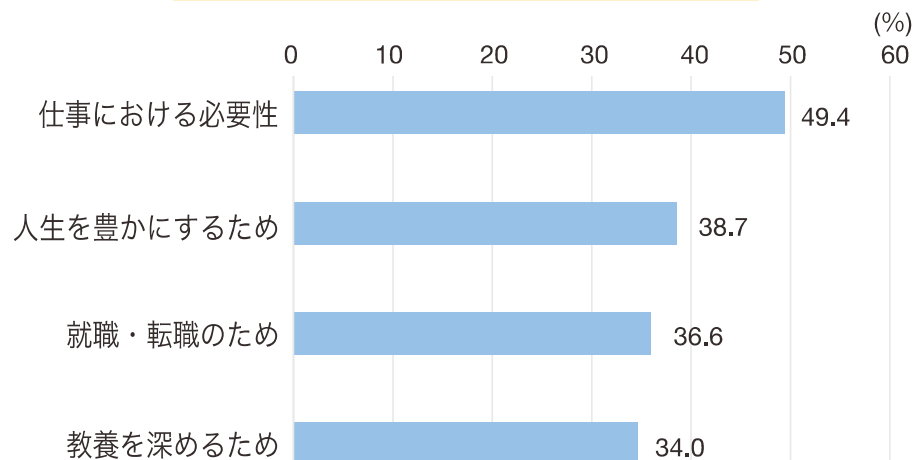
社会人となった後の学び直しの状況

（「学び直しをしたことがある・してみたい」と回答した割合）



内閣府世論調査「生涯学習に関する世論調査」（令和4年7月調査）を基に作成

学び直しの理由（令和4年7月調査）



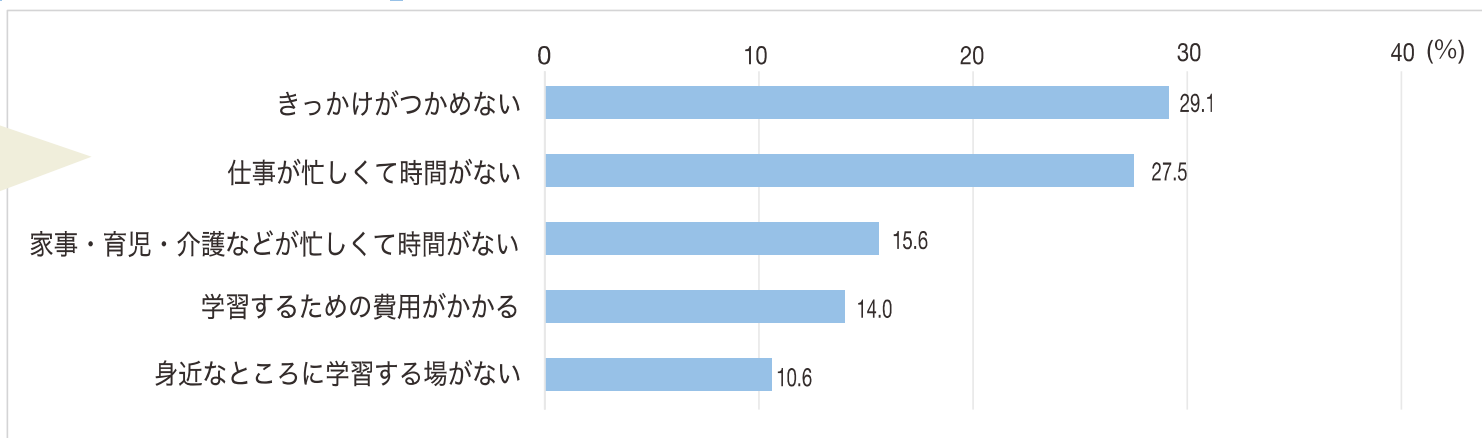
内閣府世論調査「生涯学習に関する世論調査」（令和4年7月調査）を基に作成

「学び」の現状



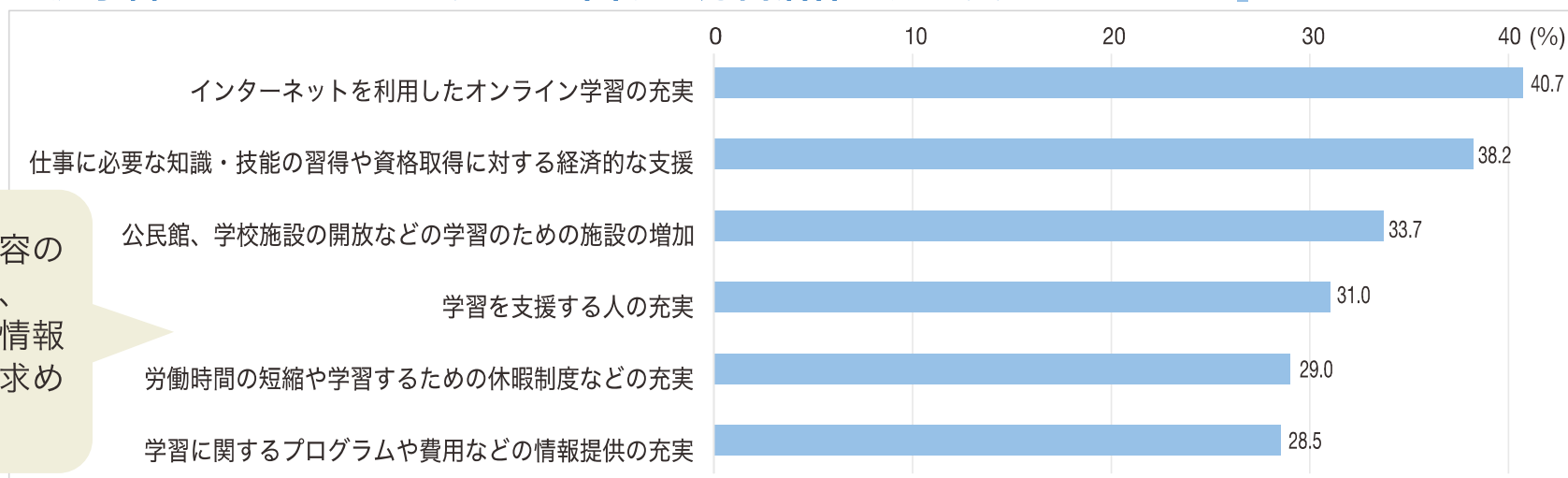
学習していない理由 (複数回答・上位項目抜粋)

学習をしていない理由として、きっかけや時間がないという理由が多くなっている。



生涯学習を盛んにしていくために国や地方自治体が入力すべきこと (複数回答・上位項目抜粋)

学習機会や内容の充実に加えて、学習支援者や情報提供の充実も求められている。

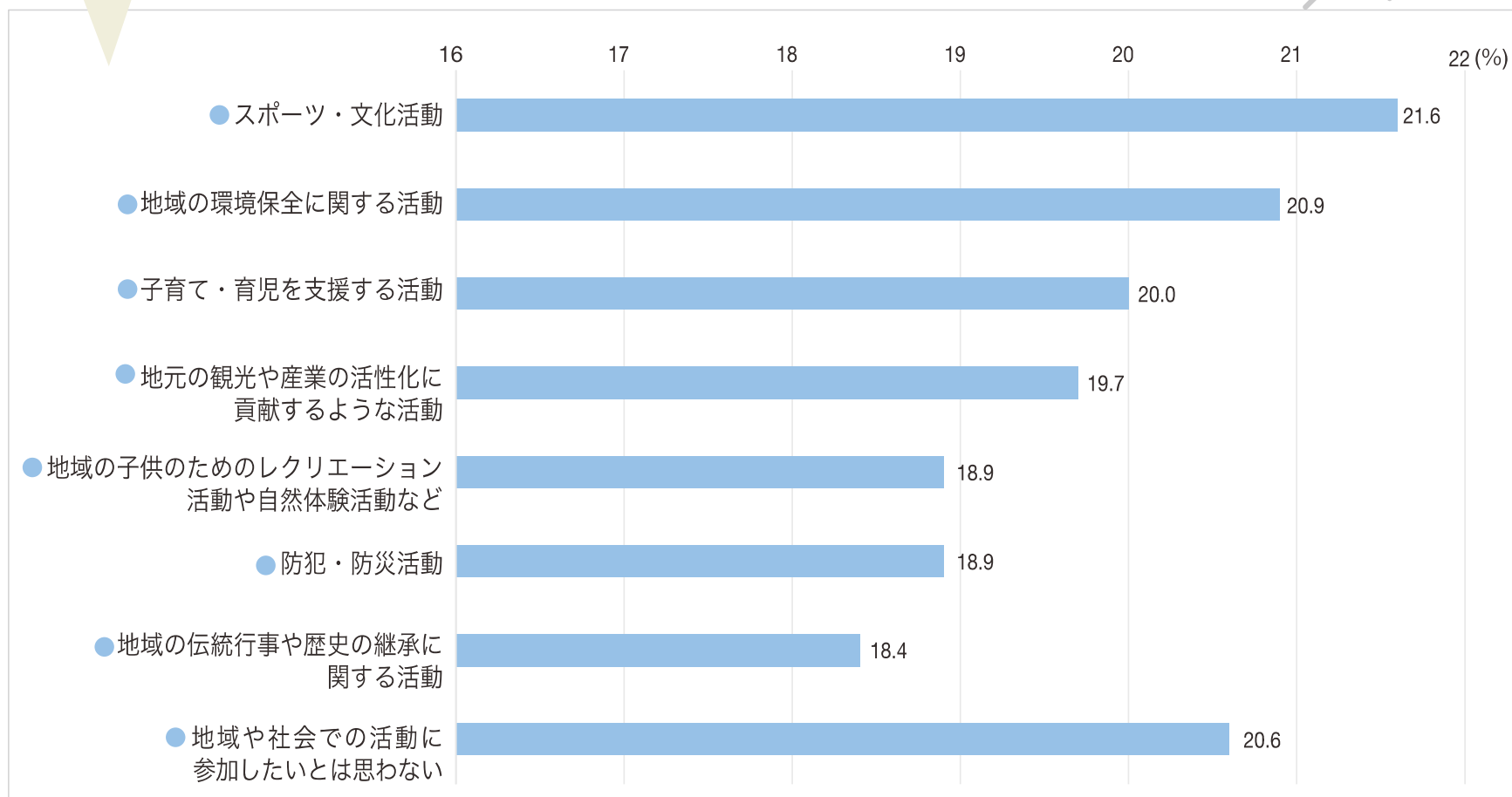


「学び」の現状



地域や社会での活動への参加意欲 (複数回答・上位項目抜粋)

一定数の割合が、地域や社会での活動への参加意欲を持っている。

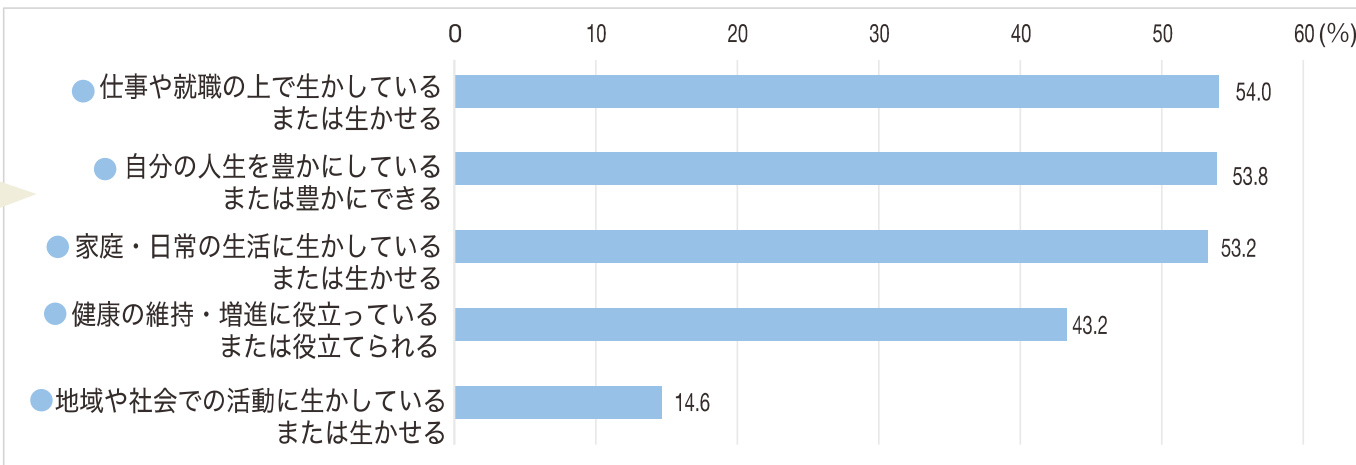


「学び」の現状



学習成果の活用状況 (複数回答・上位項目抜粋)

仕事上の活用に加えて、人生を豊かにしたり、健康増進に役立てられているものの、地域や社会での活用が限定的。



多くの人が地域や社会での活動に参加するために必要なこと (複数回答・上位項目抜粋)

活動に関する情報提供に加えて、講習会等の学びを通じたきっかけ作りが求められている。

